

# こんにちは！ 名寄市長 加藤剛士です Vol.2



このコーナーは、Airてっし（エフエムなよろ）との共同企画で、市長がテーマを設定し、Airてっしパーソナリティーと対談した内容を本紙掲載ならびにAirてっしで放送いたします。今月のパーソナリティーはAirてっし局長の太田敏一さんです。対談では「Airてっし」と表示させていただきます。

## 大学を活かしたまちづくり ～地方都市に大学を～

**Airてっし** 市長が近年の社会構造や、地域コミュニティの変化の中で問題として感じていることをお聞かせください。

**市長** 全国各地で100歳以上の高齢者の行方不明が相次いで報告されています。日本の地域コミュニティの崩壊はいよいよここまでできたか、と驚かされます(念のため、名寄市の100歳以上の高齢者は平成22年8月末現在で15名。もちろん全員所在の確認はできています)。大都市への過度な人口集中と住民の無関心により、高齢者に目の行き届かない「都市型限界集落」が発生しているのかもしれない。いままで苦労してこの社会を、そして日本を築いてこられた先人や高齢者を敬い感謝することのできない国家に明日はないと思います。今一度日本人らしい生き方とは何か、そして高齢者を地域全体で見守っていくという社会の再構築を、日本全体で真剣に考えなくてははいけません。

**Airてっし** そういった社会や地域のつながりを再構築するヒントや手段などはありますか。

**市長** 数ヶ月前の日経新聞に、興味深い記事を目にしました。作曲家の三枝成彰氏のインタビュー「大学を首都圏から一掃せよ！地域活性化の拠点に」。要約すると『全国の大学、短大の約46%は関東平野に集中している。関東平野からすべての大学を閉め出し、強制的に地方に移転させてはどうか。一つの大学が移転してくれば、それだけで何千の人が動くことになる。大学が地方へ移り、各地の地価を徐々に上げつつ、東京を暮らしやすくする方が、はるかに日本全体の活性化につながる』といった内容です。まさに「我が意を得たり！」。

無関心、個人主義がはびこる世の中。しかし、本来われわれ人間なんて一人ではちっぽけな存在なのではないでしょうか。家族やまわりの人々、自然、全てのものに生かされている。今一度人間らしい、自分らしい生き方を見つけるためにも、学生は田舎で学ぶべきです。誘惑の少ない静かな環境で勉学に励むことに加え(笑)、田舎ならではの大自然とふれあい、地域の文化や人と人とのつながりを肌で感じるのが何より大切なのではないで

しょうか。一方で地方都市は若くて活力のある人材を求めています。大学の知的財産・人的財産が地域の活性化に無限の可能性を拓くことになるのです。地方都市へ大学を。政府が掲げる「地域主権」の大きなきっかけになると思うのですが、みなさんはどう思いますか。

**Airてっし** 名寄市には、歴史のある日本で最北の公立大学がありますね。

**市長** 名寄市立大学は昭和35年に名寄女子短期大学として設置されて以来、本年創立50年の節目の年を迎えました。財政問題からの廃学議論など、幾多の苦難を乗り越えながらも、児童学科や看護学科の新設、4大化と、時代のニーズに即した大学づくりが行われ、現在の姿があります。すばらしい財産を残していただいたことに感謝です。そして、歴代の市長や学長、先生方をはじめ、諸先輩の皆さまの教育とまちづくりに対する情熱にただただ驚嘆するばかりです。名寄市は、さらに連携を深めこの財産をしっかりと活かし、大学を核としたさらに豊かで健康な、地方都市のモデルとなるような発展を目指していきます。日本国家の再生はまずは教育から、そして地方から！

**Airてっし** 大学と地域が連携した活力あるまちづくりが進められることを期待します。

※この企画のAirてっしでの放送時間は、毎月1日と10日の午前と午後の予定。土・日・祝日のときは、その翌日の放送となります。



「名寄市からのお知らせ」を放送中

市からのお知らせやイベント情報などを紹介しています。

放送＝毎週月～金曜日 ①8:10から ②12:30から ③17:10から